

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670200140		
法人名	株式会社 総合医療		
事業所名	グループホームそよかぜ		
所在地	徳島県鳴門市瀬戸町明神字上本城77-2		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ウチノ海に面し、日常生活の中で自然と共存する毎日をすごしている。元気な利用者は建物周辺を散歩し、歩行困難な利用者は廊下歩行を日課としている。利用者の希望を取り入れテレビや新聞を参考に、外出やドライブに出掛けている。“利用者の人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービスの提供に努める”を理念とし、家庭的で快適な環境作りをしその人らしい自立支援をめざしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近隣には海があり、穏やかな雰囲気の中過ごすことができる。毎朝、利用者は事業所のテーマソングにあわせて体操を行っている。また、般若心経を唱えたり、童謡等を歌ったりしている。利用者は、事業所の周辺を散歩する際、近隣の住民と交流を図っている。散歩が困難な利用者は、車椅子や歩行器を使用して廊下を歩くなどしている。全職員で自己評価を行って、運営推進会議の際に評価結果を報告し、参加者から意見をもらうなどしてサービスの質の向上に反映している。入浴の順番を工夫して組み立て、楽しく入浴することができるよう配慮している。トイレでの排泄を大切に捉えて支援している。利用者を中心となって、職員とともに梅干や干し柿、干し大根等をつくっており、家庭的な雰囲気のなか毎日を楽しく過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			そよかぜ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の見える場所に理念を記載し理念に基づき介護することに努めている。	管理者と職員は、地域密着型サービスの意義を理解している。理念である“利用者の立場に立ったサービスの提供”について、職員間で話しあい、具体的なケアの実践に繋がっている。	運営法人の変更に伴い、現在の事業所理念の見直しを計画している。新しい組織の運営理念に基づき、地域での暮らしの継続を支えるための事業所独自の理念の作成に期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩に出掛け地域の人とあいさつを交わしたり話をしたりしている。きれい会や地域の清掃活動に参加し地域の人々と交流する事に努めている。	利用者と職員は、ともに町内の清掃活動に参加している。事業所の周辺を散歩するときに、地域住民と挨拶を交わしている。訪問介護員研修の実習生を受け入れている。また、草花の手入れなどのボランティアの来訪もあり、積極的に地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れや実習生の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に取り上げられた内容についていろいろな意見を出していただき職員に報告し実践するようにしている。	年6回、運営推進会議を開催している。事業所の現況や行事等の報告を行ったり、参加者から意見や要望を出してもらったりして、双方向的に協議している。また、自己評価や外部評価結果、抽出された課題等についても報告し、意見を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告書の提出時や運営推進会議時に直面している課題について意見をいただいているが管理者が変わり市町村職員との関係を築きたいと思う。	市担当者へ事業所の実情や取り組みを伝えてアドバイスをもらっている。市の介護相談員の来訪時には、利用者から相談を受けたり、現場見学を行ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	二階に位置し、入り口が急な階段のため転倒防止のため家族希望により施錠をしている。利用者が外出しそうな様子を察知したら一緒に階段を下り一緒についていくようにしている。	以前、家族の希望等もあり転倒防止のための施錠を行っていたが、現在は施錠していない。家族と職員間で話しあいを重ね、工夫を行うなどしている。また、家族へ身体拘束の弊害について説明し、納得を得たうえで鍵をかけない支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し、虐待の自覚がないことが虐待行為にあたることに気づき虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			そよかぜ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、必要性について話合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は不安や疑問を尋ね、十分な説明を重ね、理解や納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時なんでも言ってもらえる雰囲気づくりに気を付けている。要望がでたときは職員で話し合い、連絡ノートに記入し、運営や介護などに反映するようにしている。	家族の来訪時に意見や要望の把握に努めている。出された要望は連絡ノートに記入している。全職員で共有して検討を行い、運営面へ反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回全体会議を開き、職員の意見を聞く機会を設け、反映させるようにしている。	毎月、代表者と管理者で全体会議を開催し、職員の意見や要望を聞いている。出された意見やアイデアを運営面に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務状況などを理解し、職員同士の人間関係を把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交代で研修を受ける機会を設けているが、勤務体制などで参加できないことがある。研修報告は毎月の全体会議で発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価や運営推進会議で交流するきっかけがなく少しずつ同業者と交流するきっかけを作りたいと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			そよかぜ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族やケアマネに生活状況を聞き把握するように努める。本人にあつて話を聞き、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込み時や決定時に家族と連絡を取り、困っていることや不安なことなどを聞く機会をつくり、施設生活の不安をなくすようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一階デイサービスの利用やほかのグループホームや施設利用をすすめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係を築き、お互いが協働しながら和やかな生活ができるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝え一緒に支えている家族もろりが面会をしていただけない家族がいて請求書送付時しようきよう		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している病院や店に行っている利用者や一階デイサービス利用者と話をしたり、継続的な交流ができるよう働きかけている。	職員は、利用者が以前から受診している医療機関や馴染みの商店での買い物に同行するなどして外出を支援している。併設の他サービス事業所を利用している友人との面会等も支援しており、継続的に交流することができるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に共同作業やゲームなどを通して仲間外れにならないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			そよかぜ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からのご相談などがあれば、相談にのったり、支援に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ把握に努めている。	日ごろから職員は、利用者との生活のなかで、些細な言動や表情等から希望や思いの把握に努めている。把握した情報は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の会話や家族との話から、その人を知る参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録などで、利用者の現状の把握に努めている。できないことよりできることに注目している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に意見を聞き反映させるようにしている。	介護計画書の設定期間ごとに見直しを行っている。本人や家族の要望、身体状況の変化に応じて、そのつど介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・身体的状況・日々の暮らしの様子を記録している。情報を共有し見直しなどでやくだてている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況により、通院や買い物など必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			そよかぜ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望により、デイサービスを利用できるよう支援している。本人の希望で訪問美容サービスを利用してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。週一回の往診医により、相談や協力を得て安心した医療をうけている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族の協力を得たうえで受診や通院の支援を行っている。家族の同行が困難な場合は、職員が付きそっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月～土の朝、デイの看護師がバイタルチェックを実施している。医療面での相談・発熱や状況の変化にアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを防ぐために医師と相談し施設内での対応可能な段階で退院している。できるかぎり、職員が見舞うようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状況説明を家族に説明し、主治医、家族と話し合いを持っている。施設で出来ること、出来ないことを話し理解してもらっている。	入居時の段階で、事業所の対応できる終末期の支援について、本人や家族へ説明を行っている。状態に変化が見受けられた際には、家族や職員間で話しあい、医療機関と連携を図っている。利用者一人ひとりが安心して終末期を迎えることができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着する前の応急処置や準備すべき事については職員で対応できるよう勉強している。初期対応の研修をうけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力で利用者と一緒に非難訓練、初期消火の訓練をうけている。町内会の役員さんに協力をお願いしている。	年2回、消防署の指導のもと避難訓練を行っている。町内会に依頼し、地域との協力体制も構築している。非常用の水や食料、ヘルメットなどを備蓄している。利用者が手づくりした防災頭巾も用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			そよかぜ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話やすいように、地元言葉で話したり、自己決定しやすいような、言葉かけに気を付けている。	職員は、利用者へ親しみを込めて地元の言葉で話しかけており、つねに年長者としての敬意をもって接している。利用者一人ひとりのファイルなどは、プライバシーに配慮した管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がすべて決めることなく、複数の案をだし、選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の場所で自由に過ごされているが、食事、体操、入浴などはスタッフの都合で決めている事も少なくない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴ときの着替えは、利用者に関心職員が出している。しかし、自己決定がしにくい利用者は職員が決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新聞の広告を見て、毎日のように食べたい物の希望があり、できるかぎり希望に添えるようにしている。配膳や盛り付けなどは、利用者さんと一緒にしている。	利用者と職員で相談して毎日の献立を決めている。利用者は、一人ひとりの能力に応じて準備や後片づけを職員と一緒にやっている。また、和やかな雰囲気の中、同じテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。栄養バランスなどについて医師からアドバイスをもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を介護記録に記載し、できるだけ本人の好きなものを出すようにしている。水分量は1日1リットル以上を目安にしている。水分制限されている利用者は主治医と相談して決めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週1回歯科衛生士さんのブラッシング指導を受けている。毎食後、口腔ケアをしているが、中には拒否される方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			そよかぜ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助の必要な利用者さんは、個々の排泄記録により、トイレ誘導し、トイレの排泄に心掛けている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。パットを使用している利用者へさりげない声かけや誘導を行うことで、トイレで気持ちよく排泄することができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘の方には医師の指導の下、服薬したり、牛乳、植物繊維の多い食べ物を摂取し、水分補給にきをつけている。散歩や体を動かすことで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴している。入浴順番を気にしている利用者さんがいるので、順番を決めているが、入浴時間内で好きな時間帯で1人入浴している利用者さんもいる。	利用者や家族の希望に応じ、毎日の入浴を支援している。利用者から一番に入浴したいとの要望があり、入浴順を一覧にしてローテーションにすることで、利用者全員が納得して入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活のペースで居室で休息したり、ホールで居眠りなど利用者に応じた方法で過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録や往診記録、連絡ノート等で変更や服薬を理解し、状態の変化に十分に気を付け申し送りをするように心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の意見や希望を聞き、それぞれにあった仕事や趣味、嗜好品などで楽しく生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望によって、花を見に出かけたり、買い物に行くことがある。ボランティアに協力をしてもらって出かけることもある。	天気の良い日には、事業所の周辺を散歩している。また、ボランティアの協力を得て、桜やひまわり、コスモスなど、季節の花見に遠出することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			そよかぜ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る利用者さんには持っていたりしているが、置き忘れがあったり、置き場所が移動したりして、把握出来なくなることがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時に電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは扉はつけていない。利用者さんのなかで鍵をかけたで出なくなり困ったことがあり、カーテンで対応している。	事業所の窓からは、馴染みの風景を眺めることができる。利用者は、思い思いの場所で過ごしており、テレビの前のソファで自分の場所を確保している利用者もいる。共有空間の配置物等にも留意しており、利用者が不安を感じる事が無いよう留意している。家庭的な雰囲気留意した空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間は一体的な作りで、ソファを置き思い思いにくつろげるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族に説明をし、理解していただき協力してもらっている。	すべての居室が畳敷きとなっており、床との段差はスロープで対応するなどして安全面に配慮している。利用者は、使い慣れたベッドや家具、写真等を持ち込んでいる。本人と家族とで相談し、家具の配置や飾りつけを行っている。利用者一人ひとりにとって居心地の良い居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	本人にとって、なにがわかりにくいのかを把握しわかるような工夫をしている。		